完全マスターコース・ポイント速習コース
完全マスターコースオンライン
筆記通信コース・Web学習コース

受講生限定資料

ケアマネジャー受験対策講座2025

第27回介護支援専門員実務研修受講試験【分析資料】

＜ご使用にあたってのお願いとご注意＞

※受験生の正答率については、三幸福祉カレッジ自動採点サービスをご利用いただいた約4,000名のご回答を元に算出した独自分析となります。
※当資料の無断転用、転載、他人への譲渡は禁じます。
※当資料の内容につきましてのご質問はお受けできませんので、ご了承ください。

三幸福祉カレッジ

2025.3

本紙の全部または一部の無断引用・転載、またはコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製を行うとは、著作権法上の例外を除き禁じられています。

■本資料の使い方

第27回(2024年10月13日実施)本試験について、三幸福祉カレッジ独自分析資料を作成しました。
問題のポイント/問題の難易度がわかる受験生の正答率/昨年度の三幸福祉カレッジの該当教材/過去3年分の出題項目等を掲載していますので、ぜひ学習にお役立てください。
また、下記にある各資料のポイントを確認し、効率よく学習しましょう。

(1)問題のポイント、難易度、昨年度の三幸福祉カレッジの該当教材について

★ポイント

①自動採点サービスをご利用いただいた受験生の正答率を算出しました。正答率から、難易度がわかります。

②昨年度の三幸福祉カレッジオリジナル教材で、類似の選択肢があった問題を記載しています。

【教材名】一問:一問一答問題集/要点:要点ハンドブック/演習:演習問題集/模試:授業内模試/直対:直前対策講義プリントなど

③設問のポイントを記載しています。本試験問題を読んでポイントを確認しましょう。

	第27回(令和6年)10/13		
	正答率(%)	教材	ポイント (①×は、①の選択肢に多くの受験生が引っかかった)
1	96%	要点	介護に関する社会状況を察知していれば正答できる、正答率が高い問題であった。
2	67%	基礎・演習・要点・模試	選択肢の中に具体的な数値があり難しく思われるが、高齢になるに従い認定率が高くなる傾向など理解していれば正答が導き出せる。
3	64%	基礎・演習・要点・直対・全国	第2号被保険者の保険料の流れを押さえておく必要がある。そうすれば医療保険者の役割が理解できるはずである。
4	47%	演習・直対	これまで出題されていないような文があり、解答に迷い正答率が47%と低かった。都道府県の介護保険事業への関わりなど押さえておきたい。
5	71%	一問 要点・直対・全国	第1号・第2号被保険者の資格要件、資格の取得・喪失時期が理解していれば正答できる。
6	67%	一問・演習・直対・模試・全国	区分支給限度基準額の適用について理解しておく必要がある。少ない適用されないサービスをしっかりと覚えていれば正答できる。

(2)本試験出題項目について

★ポイント

④第25回～第27回まで、3年分の出題項目を記載しています。出題実績から頻出項目を把握しましょう。

⑤3年連続出題項目について、緑色で示しています。頻出項目ですので理解を深めましょう。

		第27回(令和6年)10/13 出題項目	第26回(令和5年)10/8 出題項目	第25回(令和4年)10/9 出題項目
問	1	近年の介護を取り巻く状況	高齢化の状況	介護保険制度の考え方
問	2	要介護認定者数の状況	地域福祉・地域共生社会	重層的支援体制整備事業
問	3	医療保険者の事務	社会保険	介護保険法第5条
問	4	都道府県の責務	介護保険法第2条	第1号被保険者の状況
問	5	第1号被保険者	住所地特例	被保険者資格
問	6	区分支給限度基準額	被保険者(適用除外施設)	介護支援専門員
問	7	市町村長が指定するサービス	他法令による給付調整	介護保険施設
問	8	保険給付と利用者負担	保険給付の現物給付化	要介護認定
問	9	高額介護サービス費	指定居宅サービス事業者の責務	介護保険財政
問	10	市町村介護保険事業計画	介護保険等関係情報の調査及び分析	保険料
問	11	介護保険財政	地域医療介護総合確保基金	地域支援事業 (介護予防・生活支援サービス事業)
問	12	第2号被保険者の保険料	社会保険診療報酬支払基金	地域支援事業(包括的支援事業)
問	13	認知症総合支援事業	包括的支援事業	国保連の業務
問	14	介護予防ケアマネジメント	地域ケア会議	介護サービス情報の公表制度
問	15	介護保険審査会	介護サービス情報の公表制度	介護サービスに関する苦情処理
問	16	市町村が有する権限	審査請求	主治医意見書
問	17	認定調査票に含まれる項目	消滅時効	特定疾病
問	18	要介護認定の一次判定	要介護認定(申請)	要介護認定

(3)関連項目別出題実績について

★ポイント

⑥関連項目別に出題項目を並べています。関連性を意識しながら学習しましょう。

関連項目	出題項目	第27回(令和6年)10/13	第26回(令和5年)10/8	第25回(令和4年)10/9
高齢者を取り巻く状況と改正関連	高齢化		問1	
	介護を取り巻く状況	問1		
	第1号被保険者の状況			問4
	要介護認定数の状況	問2		
	2020年改正内容			
	共生型サービス			
	地域福祉, 地域共生社会		問2	
	重層的支援体制整備事業			問2

本紙の全部または一部の無断引用・転載、またはコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製を行うとは、著作権法上の例外を除き禁じられています。

■第27回本試験について
▼今後の出題傾向について、基本的な知識を問う問題が多く、この傾向は今後も続くと予測される。
▼出題形式としての「3つ選べ」について：第25回は、介護支援分野では19問／25問（76%）、保健医療サービスの知識等では17問／20問（85%）、福祉サービスの知識等では11問／15問（73%）、全60問では47問（78.3%）と、例年以上の数を占めた。（第24回は、73%であった）
⇒**正しいものを3つ選ぶ選択肢が7割弱を占めるため、確実に誤りの選択肢を消去できるかが合格のカギとなる**、と考えられる。

（1）問題のポイント、難易度、昨年度の三幸福祉カレッジの該当教材について

第27回（令和6年）10/13				
		正答率（%）	教材	ポイント （①×は、①の選択肢に多くの受験生が引っかかった）
問	1	96%	要点	介護に関する社会状況を察知していれば正答できる、正答率が高い問題であった。
問	2	67%	基礎・演習・要点・模試	選択肢の中に具体的な数値があり難しく思われるが、高齢になるに従い認定率が高くなる傾向など理解していれば正答が導き出せる。
問	3	64%	基礎・演習・要点・直対・全国	第2号被保険者の保険料の流れを押さえておく必要がある。そうすれば医療保険者の役割が理解できるはずである。
問	4	47%	演習・直対	これまで出題されていないような文があり、解答に迷い正答率が47%と低かった。都道府県の介護保険事業への関わりなど押さえておきたい。
問	5	71%	一問 要点・直対・全国	第1号・第2号被保険者の資格要件、資格の取得・喪失時期が理解していれば正答できる。
問	6	67%	一問・演習・直対・模試・全国	区分支給限度基準額の適用について理解しておく必要がある。少ない適用されないサービスをしっかりと覚えていれば正答できる。
問	7	43%	演習・直対・模試	指定権限が市町村なのか都道府県なのか各サービスについて整理しておきたい。
問	8	88%	一問・演習・要点・直対	利用者負担に関する決まり事項を押さえておく必要がある。
問	9	73%	演習・直対・全国	高額介護サービス費の支給要件、支給手続きなど押さえておきたい。
問	10	53%	一問・演習・直対・模試・全国	介護保険事業計画の作成、定める事項など基本的な内容が問われているが53%と正答率が低かった。 基本的なことは理解する必要がある。
問	11	73%	基礎・一問・演習・要点・直対・模試	介護保険の全体的な財政構造を理解しておきたい。介護保険給付費の負担など押さえていれば正答できた。
問	12	28%	基礎・要点・直対	正答率28%とかなり低かった。第1号と第2号被保険者の保険料の設定、徴収などについて理解しておく必要がある。
問	13	74%	基礎・一問・演習・要点・直対・模試	地域支援事業の認知症総合支援事業について具体的な内容が問われた。認知症を主として支援する職種、チームを押さえておきたい。
問	14	45%	一問・演習・要点	介護予防ケアマネジメントの対象者、担当、利用者負担などを理解していれば正答できる。
問	15	26%	一問・演習・直対・模試・全国	審査請求の可否で惑わされた問題で正答率26%とかなり低かった。審査請求が認められている事項は押さえておく必要がある。また、役割や委員の構成など、介護認定審査会との違いを整理しておきたい。
問	16	49%	一問	市町村、都道府県それぞれの責務について整理しておきたい。
問	17	92%	一問・演習・模試・全国	たくさんある項目から選択する問題で難しいように思われるが、今回の選択肢は含まれないと判断しやすい消去法で正答が導き出せた。
問	18	71%	基礎・一問・直対・全国	一次判定に関する基本的なことを理解していれば正答できた。
問	19	99%	基礎・一問・演習・模試・全国	問題17同様、項目を選択する問題だが、主治医として介護認定に必要な項目かどうか考えれば消去法で正答が導き出せた。
問	20	90%	一問・演習・模試・全国	介護支援専門員がすべきケアマネジメントの基本内容であり、押さえておくことは必須である。
問	21	77%	一問・演習・模試・全国	居宅介護支援の具体的取扱方針についての理解は必要であり、できていれば正答できた。
問	22	63%	一問・演習・模試・全国	記録の必要性、整備等について押さえておきたい。ケアマネジメントにおいて記録の重要性は高く、必須項目である。
問	23	89%	一問・演習	指定介護予防支援におけるケアマネジメントの視点を理解しておけば正答が導き出せた。
問	24	78%		介護支援専門員に求められる視点である、尊厳保持・利用者本位・自立支援等を理解していれば正答できる。確実に得点したい問題である。
問	25	97%		介護支援専門員に求められる視点である、尊厳保持・利用者本位・自立支援等を理解していれば正答できる。確実に得点したい問題である。

副教材を、繰り返し解くことが合格への近道です！！

本紙の全部または一部の無断引用・転載、またはコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製を行うとは、著作権法上の例外を除き禁じられています。

第27回(令和6年)10/13

		正答率(%)	教材	ポイント (①×は、①の選択肢に多くの受験生が引っかかった)
問	26	93%	一問・演習・要点・直対	せん妄に関する問題は頻出。過去問でしっかりと対策がとれていれば容易に正答を導き出せる問題。今後も出題が予測される。
問	27	98%	一問・演習・要点・直対・模試・全国	バイタルサインの基本的な知識を問う問題。確実に得点したい問題である。
問	28	96%	直対・全国	口腔ケアの基本的な知識を問う問題である。日ごろの実務と紐づけて確実に得点したい問題である。
問	29	99%	一問	リハビリテーションの基本的な知識を問う問題であった。リハビリテーションは頻出項目のため必ず押さえる必要がある。
問	30	97%	一問・直対・模試・全国	高齢者の精神疾患についての問題。選択肢は過去に出題されているもので正答率も高かった。
問	31	97%	演習	医学的診断・予後予測・医療との連携からは近年出題実績が多い。在宅復帰の際の介護支援専門員の役割についてしっかりと押さえておく必要がある。
問	32	99%	一問	選択肢にひねりはなく常識的な問題であった。
問	33	88%	一問・演習・要点・直対	在宅医療管理からは例年出題される。今年度は2問出題されていた。内容としては難しくない。過去問の活用が有効である。
問	34	82%	一問・演習・要点・模試・全国	感染予防に関しての問題。他に比べると正答率がやや低い。2×肺炎球菌ワクチンの接種頻度と3〇結核の初期症状で迷った受験生が多い。
問	35	96%	一問・演習・要点・直対・模試	在宅医療管理2問目。過去問で対策がとれていれば容易に正答が導き出せる問題である。
問	36	97%	一問	急変時の対応についての問題。2年連続で出題された。基本的な知識を問う問題である。
問	37	99%	一問・演習・要点・直対・模試・全国	高齢者に多い疾患について基本的な知識を問う問題。今後もフレイル・サルコペニアについては出題が予測されるので必ず押さえておく必要がある。
問	38	94%	要点	1×ナイロンタオルについては過去に出題実績あり。他の選択肢も基本的な知識を問う問題で難易度は低い。
問	39	98%	直対	死亡診断書についての問題は過去に出題あり。過去問に取り組んでいた方は容易に解ける問題である。
問	40	93%	一問・演習・要点・直対・模試・全国	過去の出題実績から頻出項目といえる。基本的な知識を問う問題なので確実に押さえる。
問	41	75%	一問・演習・直対・模試・全国	他の問題に比べてやや正答率が低いが、間違いの選択肢から消去法で正答を導き出せる問題。
問	42	79%	一問・演習・要点・直対・模試・全国	短期入所療養介護は連続して出題されている。選択肢は過去に出題実績があるものなので過去問の活用が有効である。
問	43	77%	一問・演習・直対・全国	定期巡回・随時対応型訪問介護看護の基本的な知識を問う問題。過去問を活用し確実に押さえておきたい。
問	44	76%	一問・演習・要点・直対・模試・全国	2×開設者は医療法人だけでなく、介護老人福祉施設と同様に社会福祉法人も開設できる。介護老人福祉施設との相違点を押さえておく必要がある。
問	45	60%	一問・演習・直対・模試	保健医療分野では一番正答率が低い。介護医療院の類型、施設及び設備に関する基準、運営基準まで理解しておく必要がある。
問	46	96%	一問・直対・模試・全国	正答率は96%と高く、コミュニケーション技術の基本的知識が問われた問題であった。
問	47	83%	演習	問題46と合わせて、アセスメントとは、スーパービジョンとは、アウトリーチとは、という専門用語を整理しておくとよい。
問	48	85%	演習・直対	支援困難事例は、日々の現場実践を踏まえ、チームアプローチや多職種連携を意識することができれば、容易に正答を導き出すことができる。
問	49	86%	直対・全国	地域援助や集団援助と具体的実践例を紐づける出題形式は、定番の出題形式である。過去問題を活用して学習に取り組むとよい。
問	50	96%	演習	正答率96%と高く、訪問介護についての基本的知識が問われた問題であった。訪問介護は毎年出題される頻出項目のため、必ず押さえておく必要がある。
問	51	43%	一問・全国	正答率43%と低い数値となった。詳細な運営基準が問われたことが要因であると考えられる。受験生の多くが、選択肢3に引っかかっていた。
問	52	79%	一問・演習・模試	訪問入浴介護を利用する対象者を正確に押さえておく必要がある。あわせて人員基準と運営基準の基本的な内容は押さえておくとよい。
問	53	63%	一問・演習	短期入所生活介護は、運営基準のみならず、設備基準も押さえておく必要がある。
問	54	83%	一問・演習・要点・直対・模試	福祉用具の使用目的は基本的な知識であるため、容易に正答を導き出せたと考えられる。他選択肢の貸与と販売の種目整理は必須である。
問	55	27%	演習	正答率27%であった。この問いが、福祉サービスの知識等で最も難問といえる。3つ選べではなく2つ選べ形式であったことも、正答率低下の要因であると考えられる。地域密着型サービスの詳細な運営基準は、難問であろう。
問	56	65%	一問・全国	小規模多機能型居宅介護の人員基準が問われているが、基本的知識のため覚えていれば消去法で、正答を導き出すことができたはずである。
問	57	34%	一問	正答率34%の難問であった。例年であれば指定介護老人福祉施設は、基本的な知識が問われるが、第27回では、詳細な運営基準が問われた。多くの受験生が選択肢1に引っかかってしまった。努力義務か義務なのか、正確に覚える必要がある。
問	58	54%	一問・要点・全国	例年出題される頻出項目であり、今後も継続して出題されることが予測される。問われている内容は、基本的知識である。改めて、生活保護制度の原理原則を確認すること、扶助の内容を確認しておくとよい。
問	59	53%	一問・演習・要点・模試	例年出題される頻出項目であり、今後も継続して出題されることが予測される。問われている内容は、基本的知識であるが、正答率が54%とさほど高くないことから、要点ハンドブック等を活用し、基本的な知識を再度押さえておく必要がある。
問	60	31%	一問・要点	正答率31%であった。問われている内容は基本的な知識ではあるが、後期高齢者医療制度は頻出項目ではないため、学習が不足している受験生が多かったと考えられる。生活保護制度や成年後見制度同様に、要点ハンドブックを効率良く活用し、学習に取り組むとよい。

本紙の全部または一部の無断引用・転載、またはコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製を行うとは、著作権法上の例外を除き禁じられています。

介護支援専門員試験対策講座　分析資料（3年分出題実績・正答率）

■第27回本試験について
・第27回は、介護支援分野正答率69%・保健医療サービス正答率90%・福祉サービス正答率65%であった。福祉サービスの正答率が最も低かったことから、福祉サービスの難易度が難しかったと考えられる。正答率が下がった要因としては、全15問中5問、つまり3分の1が、正答率50%以下の問題であった。また問題60「生活保護制度」についての正答率が28%しかなく、全60問の中で2番目に難問であった。これらが、福祉サービス全体の正答率を下げる結果に影響したと考えられる。一方で、保健医療サービスの正答率が90%であり、難易度は易しかったと判断できる。
・出題形式としての「3つ選べ」について：第27回は、介護支援分野では14問／25問（54%）、保健医療サービスの知識等では17問／20問（85%）、福祉サービスの知識等では14問／15問（73%）、全60問では45問（75%）が、「3つ選べ」の選択肢であった。昨年度と比較すると、福祉サービス分野において顕著な増加がみられた。今年度も、約7割程度が「3つ選べ」の選択肢となるだろう。
・第27回は、介護保険制度改正の年であったがほぼ改正内容は出題されていなかった。したがって第28回への対策としては、介護保険制度改正点をおさえつつも、基本的な知識を確実におさえて学習することが合格への近道であると考える。

正答率から、難易度がわかります。

この教材を解いて

設問のポイントを確認しましょう。

３年分の出題実績から、頻出項目を把握する。

		第27回(令和6年)10/1?				第26回(令和5年)10/8	第25回(令和4年)10/9
		正答率(%)	教材	ポイント (①×は、①の選択肢に多くの受験生が引っかかった)	出題項目	出題項目	出題項目
問	1	96%	要点	介護に関する社会状況を察知していれば正答できる、正答率が高い問題であった。	近年の介護を取り巻く状況	高齢化の状況	介護保険制度の考え方
問	2	67%	基礎・演習・要点・模試	選択肢の中に具体的な数値があり難しく思われるが、高齢になるに従い認定率が高くなる傾向など理解していれば正答が導き出せる。	要介護認定者数の状況	地域福祉・地域共生社会	重層的支援体制整備事業
問	3	64%	基礎・演習・要点・直対・全国	第2号被保険者の保険料の流れを押さえておく必要がある。そうすれば医療保険者の役割が理解できるはずである。	医療保険者の事務	社会保険	介護保険法第5条
問	4	47%	演習・直対	これまで出題されていないような文があり、解答に迷い正答率が47%と低かった。都道府県の介護保険事業への関わりなど押さえておきたい。	都道府県の責務	介護保険法第2条	第1号被保険者の状況
問	5	71%	一問 要点・直対・全国	第1号・第2号被保険者の資格要件、資格の取得・喪失時期が理解していれば正答できる。	第1号被保険者	住所地特例	被保険者資格
問	6	67%	一問・演習・直対・模試・全国	区分支給限度基準額の適用について理解しておく必要がある。少ない適用されないサービスをしっかりと覚えていれば正答できる。	区分支給限度基準額	被保険者（適用除外施設）	介護支援専門員
問	7	43%	演習・直対・模試	指定権限が市町村なのか都道府県なのか各サービスについて整理しておきたい。	市町村長が指定するサービス	他法令による給付調整	介護保険施設
問	8	88%	一問・演習・要点・直対	利用者負担に関する決まり事項を押さえておく必要がある。	保険給付と利用者負担	保険給付の現物給付化	要介護認定
問	9	73%	演習・直対・全国	高額介護サービス費の支給要件、支給手続きなど押さえておきたい。	高額介護サービス費	指定居宅サービス事業者の責務	介護保険財政
問	10	53%	一問・演習・直対・模試・全国	介護保険事業計画の作成、定める事項など基本的な内容が問われているが53%と正答率が低かった。基本的なことは理解する必要がある。	市町村介護保険事業計画	介護保険等関連情報の調査及び分析	保険料
問	11	73%	基礎・一問・演習・要点・直対・模試	介護保険の全体的な財政構造を理解しておきたい。介護保険給付費の負担など押さえていれば正答できた。	介護保険財政	地域医療介護総合確保基金	介護予防・生活支援サービス事業
問	12	28%	基礎・要点・直対	正答率28%とかなり低かった。第1号と第2号被保険者の保険料の設定、徴収などについて理解しておく必要がある。	第2号被保険者の保険料	社会保険診療報酬支払基金	包括的支援事業
問	13	74%	基礎・一問・演習・要点・直対・模試	地域支援事業の認知症総合支援事業について具体的な内容が問われた。認知症を主として支援する職種、チームを押さえておきたい。	認知症総合支援事業	包括的支援事業	国保連の業務
問	14	45%	一問・演習・要点	介護予防ケアマネジメントの対象者、担当、利用者負担などを理解していれば正答できる。	介護予防ケアマネジメント	地域ケア会議	介護サービス情報の公表制度
問	15	26%	一問・演習・直対・模試・全国	審査請求の可否で惑わされた問題で正答率26%とかなり低かった。審査請求が認められている事項は押さえておく必要がある。また、役割や委員の構成など、介護認定審査会との違いを整理しておきたい。	介護保険審査会	介護サービス情報の公表制度	介護サービスに関する苦情処理
問	16	49%	一問	市町村、都道府県それぞれの責務について整理しておきたい。	市町村が有する権限	審査請求	主治医意見書
問	17	92%	一問・演習・模試・全国	たくさんある項目から選択する問題で難しいように思われるが、今回の選択肢は含まれないと判断しやすい消去法で正答が導き出せた。	認定調査票に含まれる項目	消滅時効	特定疾病
問	18	71%	基礎・一問・直対・全国	一次判定に関する基本的なことを理解していれば正答できた。	要介護認定の一次判定	要介護認定（申請）	要介護認定
問	19	99%	基礎・一問・演習・模試・全国	問題17同様、項目を選択する問題だが、主治医として介護認定に必要な項目かどうか考えれば、消去法で正答が導き出せた。	主治医意見書の項目	要介護認定（認定調査等）	人員及び運営基準第13号
問	20	90%	一問・演習・模試・全国	介護支援専門員がすべきケアマネジメントの基本内容であり、押さえておくことは必須である。	ケアマネジメント業務	指定居宅介護支援の人員及び運営基準	記録の整備
問	21	77%	一問・演習・模試・全国	居宅介護支援の具体的取扱方針についての理解は必要であり、できていれば正答できた。	居宅サービス計画	居宅サービス計画	モニタリング
問	22	63%	一問・演習・模試・全国	記録の必要性、整備等について押さえておきたい。ケアマネジメントにおいて記録の重要性は高く、必須項目である。	記録	施設サービス計画	介護予防サービス計画
問	23	89%	一問・演習	指定介護予防支援におけるケアマネジメントの視点を理解しておけば正答が導き出せた。	指定介護予防支援	事例（介護支援専門員の対応）	事例（介護支援専門員の対応）
問	24	78%		介護支援専門員に求められる視点である、尊厳保持・利用者本位・自立支援等を理解していれば正答できる。確実に得点したい問題である。	事例（介護支援専門員の対応）	事例（介護支援専門員の対応）	事例（介護支援専門員の対応）
問	25	97%		介護支援専門員に求められる視点である、尊厳保持・利用者本位・自立支援等を理解していれば正答できる。確実に得点したい問題である。	事例（介護支援専門員の対応）	事例（介護支援専門員の対応）	事例（介護支援専門員の対応）
問	26	93%	一問・演習・要点・直対	せん妄に関する問題は頻出。過去問でしっかりと対策がとれていれば容易に正答を導き出せる問題。今後も出題が予測される。	せん妄	高齢者の疾患の特徴	高齢者に多い症状疾患の特徴
問	27	98%	一問・演習・要点・直対・模試・全国	バイタルサインの基本的な知識を問う問題。確実に得点したい問題である。	バイタルサイン	バイタルサイン	高齢者の精神疾患
問	28	96%	直対・全国	口腔ケアの基本的な知識を問う問題である。日ごろの実務と紐づけて確実に得点したい問題である。	口腔のケア	検査	複合問題（高齢者に多い症状疾患）
問	29	99%	一問	リハビリテーションの基本的な知識を問う問題であった。リハビリテーションは頻出項目のため必ず押さえる必要がある。	リハビリテーション	褥瘡	検査項目
問	30	97%	一問・直対・模試・全国	高齢者の精神疾患についての問題。選択肢は過去に出題されているもので正答率も高かった。	高齢者の精神疾患	リハビリテーション	複合問題（介護技術）
問	31	97%	演習	医学的診断・予後予測・医療との連携からは近年出題実績が多い。在宅復帰の際の介護支援専門員の役割についてしっかりと押さえておく必要がある。	医学的診断・予後予測・医療との連携	認知症	複合問題（口腔）
問	32	99%	一問	選択肢にひねりはなく常識的な問題であった。	栄養と食事	高齢者の精神障害	認知症
問	33	88%	一問・演習・要点・直対	在宅医療管理からは例年出題される。今年度は2問出題されていた。内容としては難しくない。過去問の活用が有効である。	複合問題（在宅医療管理）	医学的診断・予後予測・医療との連携	リハビリテーション
問	34	82%	一問・演習・要点・模試・全国	感染予防に関しての問題。他に比べると正答率がやや低い。2×肺炎球菌ワクチンの接種頻度と3○結核の初期症状で迷った受験生が多い。	感染予防	医学的診断・予後予測・医療との連携	複合問題（服薬）
問	35	96%	一問・演習・要点・直対・模試	在宅医療管理2問目。過去問で対策がとれていれば容易に正答が導き出せる問題である。	複合問題（在宅医療管理）	栄養・食生活	複合問題（説明同意、助言等）
問	36	97%	一問	急変時の対応についての問題。2年連続で出題された。基本的な知識を問う問題である。	複合問題（急変時の対応）	複合問題（呼吸・在宅酸素療法）	栄養と食生活
問	37	99%	一問・演習・要点・直対・模試・全国	高齢者に多い疾患について基本的な知識を問う問題。今後もフレイル・サルコペニアについては出題が予測されるので必ず押さえておく必要がある。	複合問題（高齢者に多い疾患）	感染症	複合問題（在宅医療管理）
問	38	94%	要点	1×ナイロンタオルについては過去に出題実績あり。他の選択肢も基本的な知識を問う問題で難易度は低い。	複合問題（高齢者に多い疾患）	急変時の対応	複合問題（服薬・脱水等）
問	39	98%	直対	死亡診断書についての問題は過去に出題あり。過去問に取り組んでいた方は容易に解ける問題である。	死亡診断書	複合問題（高齢者に多い疾患）	複合問題（フレイル等）
問	40	93%	一問・演習・要点・直対・模試・全国	過去の出題実績から頻出項目といえる。基本的な知識を問う問題なので確実に押さえる。	訪問看護	ターミナルケア	臨死期
問	41	75%	一問・演習・直対・模試・全国	他の問題に比べてやや正答率が低いが、間違いの選択肢から消去法で正答を導き出せる問題。	訪問リハビリテーション	通所リハビリテーション	訪問看護
問	42	79%	一問・演習・要点・直対・模試・全国	短期入所療養介護は連続して出題されている。選択肢は過去に出題実績があるものなので過去問の活用が有効である。	短期入所療養介護	短期入所療養介護	通所リハビリテーション
問	43	77%	一問・演習・直対・全国	定期巡回・随時対応型訪問介護看護の基本的な知識を問う問題。過去問を活用し確実に押さえておきたい。	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	看護小規模多機能型居宅介護	短期入所療養介護
問	44	76%	一問・演習・要点・直対・模試・全国	2×開設者は医療法人だけでなく、介護老人福祉施設と同様に社会福祉法人も開設できる。介護老人福祉施設との相違点を押さえておく必要がある。	介護老人保健施設	介護医療院	定期巡回・随時対応型訪問介護看護
問	45	60%	一問・演習・直対・模試	保健医療分野では一番正答率が低い。介護医療院の類型、施設及び設備に関する基準、運営基準まで理解しておく必要がある。	介護医療院	介護老人保健施設	介護老人保健施設

本紙の全部または一部の無断引用・転載、またはコピー・スキャン・デジタル化等の無断複製を行うとは、著作権法上の例外を除き禁じられています。

問	46	96%	一問・直対・模試・全国	正答率は96%と高く、コミュニケーション技術の基本的知識が問われた問題であった。	面接場面におけるコミュニケーション	面接場面におけるコミュニケーション	面接場面におけるコミュニケーション
問	47	83%	演習	問題46と合わせて、アセスメントとは、スーパービジョンとは、アウトリーチとは、という専門用語を整理しておくとよい。	ソーシャルワーク	ソーシャルワーク	インテーク
問	48	85%	演習・直対	支援困難事例は、日々の現場実践を踏まえ、チームアプローチや多職種連携を意識することができれば、容易に正答を導き出すことができる。	支援困難事例	相談援助者の基本姿勢	ソーシャルワーク
問	49	86%	直対・全国	地域援助や集団援助と具体的実践例を紐づける出題形式は、定番の出題形式である。過去問題を活用して学習に取り組むとよい。	ソーシャルワーク(地域援助)	ソーシャルワーク(集団援助)	ソーシャルワーク(集団援助)
問	50	96%	演習	正答率96%と高く、訪問介護についての基本的知識が問われた問題であった。訪問介護は毎年出題される頻出項目のため、必ず押さえておく必要がある。	訪問介護	訪問介護	訪問介護
問	51	43%	一問・全国	正答率43%と低い数値となった。詳細な運営基準が問われたことが要因であると考えられる。受験生の多くが、選択肢3に引っかかっていた。	通所介護	訪問入浴介護	通所介護
問	52	79%	一問・演習・模試	訪問入浴介護を利用する対象者を正確に押さえておく必要がある。あわせて人員基準と運営基準の基本的な内容は押さえておくとよい。	訪問入浴介護	通所介護	訪問入浴介護
問	53	63%	一問・演習	短期入所生活介護は、運営基準のみならず、設備基準も押さえておく必要がある。	短期入所生活介護	短期入所生活介護	短期入所生活介護
問	54	83%	一問・演習・要点・直対・模試	福祉用具の使用目的は基本的な知識であるため、容易に正答を導き出せたと考えられる。他選択肢の貸与と販売の種目整理は必須である。	福祉用具	住宅改修	福祉用具
問	55	27%	演習	正答率27%であった。この問いが、福祉サービスの知識等で最も難問といえる。3つ選べではなく2つ選べ形式であったことも、正答率低下の要因であると考えられる。地域密着型サービスの詳細な運営基準は、難問であろう。	認知症対応型共同生活介護	小規模多機能型居宅介護	小規模多機能居宅介護
問	56	65%	一問・全国	小規模多機能型居宅介護の人員基準が問われているが、基本的知識のため覚えていれば消去法で、正答を導き出すことができたはずである。	小規模多機能型居宅介護	認知症対応型通所介護	認知症対応型共同生活介護
問	57	34%	一問	正答率34%の難問であった。例年であれば指定介護老人福祉施設は、基本的な知識が問われるが、第27回では、詳細な運営基準が問われた。多くの受験生が選択肢1に引っかかってしまった。努力義務か義務なのか、正確に覚える必要がある。	指定介護老人福祉施設	指定介護老人福祉施設	介護老人福祉施設
問	58	54%	一問・要点・全国	例年出題される頻出項目であり、今後も継続して出題されることが予測される。問われている内容は、基本的知識である。改めて、生活保護制度の原理原則を確認すること、扶助の内容を確認しておくとよい。	生活保護制度	成年後見制度	生活保護制度
問	59	53%	一問・演習・要点・模試	例年出題される頻出項目であり、今後も継続して出題されることが予測される。問われている内容は、基本的知識であるが、正答率が53%とさほど高くないことから、要点ハンドブック等を活用し、基本的な知識を再度押さえておく必要がある。	成年後見制度	高齢者虐待防止法	成年後見制度
問	60	31%	一問・要点	正答率31%であった。問われている内容は基本的な知識ではあるが、後期高齢者医療制度は頻出項目ではないため、学習が不足している受験生が多かったと考えられる。生活保護制度や成年後見制度同様に、要点ハンドブックを効率良く活用し、学習に取り組むとよい。	後期高齢者医療制度	生活保護制度	障害者総合支援法

※正答率は、自動採点サービスをもとに、当校独自の分析結果による数値となります。

副教材を、繰り返し解くことが合格への近道です！！

【副教材】
一問：一問一答問題集、要点：要点ハンド、演習：演習問題集、模試：授業内模試、直対：直前対策講座（講義プリント）

本紙の全部または一部の無断引用・転載、またはコピー・スキャン・デジタル化等の無断複製を行うとは、著作権法上の例外を除き禁じられています。

(2)本試験出題項目について

問題		第27回(令和6年)10/13	第26回(令和5年)10/8	第25回(令和4年)10/9
		出題項目	出題項目	出題項目
問	1	近年の介護を取り巻く状況	高齢化の状況	介護保険制度の考え方
問	2	要介護認定者数の状況	地域福祉・地域共生社会	重層的支援体制整備事業
問	3	医療保険者の事務	社会保険	介護保険法第5条
問	4	都道府県の責務	介護保険法第2条	第1号被保険者の状況
問	5	第1号被保険者	住所地特例	被保険者資格
問	6	区分支給限度基準額	被保険者(適用除外施設)	介護支援専門員
問	7	市町村長が指定するサービス	他法令による給付調整	介護保険施設
問	8	保険給付と利用者負担	保険給付の現物給付化	要介護認定
問	9	高額介護サービス費	指定居宅サービス事業者の責務	介護保険財政
問	10	市町村介護保険事業計画	介護保険等関連情報の調査及び分析	保険料
問	11	介護保険財政	地域医療介護総合確保基金	地域支援事業 (介護予防・生活支援サービス事業)
問	12	第2号被保険者の保険料	社会保険診療報酬支払基金	地域支援事業(包括的支援事業)
問	13	認知症総合支援事業	包括的支援事業	国保連の業務
問	14	介護予防ケアマネジメント	地域ケア会議	介護サービス情報の公表制度
問	15	介護保険審査会	介護サービス情報の公表制度	介護サービスに関する苦情処理
問	16	市町村が有する権限	審査請求	主治医意見書
問	17	認定調査票に含まれる項目	消滅時効	特定疾病
問	18	要介護認定の一次判定	要介護認定(申請)	要介護認定
問	19	主治医意見書の項目	要介護認定(認定調査等)	人員及び運営基準第13号
問	20	ケアマネジメント業務	指定居宅介護支援	記録の整備
問	21	居宅サービス計画	居宅サービス計画	モニタリング
問	22	記録	施設サービス計画	介護予防サービス計画
問	23	指定介護予防支援	事例(介護支援専門員の対応)	事例(介護支援専門員の対応)
問	24	事例(介護支援専門員の対応)	事例(介護支援専門員の対応)	事例(介護支援専門員の対応)
問	25	事例(介護支援専門員の対応)	事例(介護支援専門員の対応)	事例(介護支援専門員の対応)
問	26	せん妄	高齢者の疾患の特徴	高齢者に多い疾病
問	27	バイタルサイン	バイタルサイン	高齢者の精神障害
問	28	口腔のケア	検査	バイタルサイン
問	29	リハビリテーション	褥瘡	検査
問	30	高齢者の精神疾患	リハビリテーション	複合問題＜介護技術の展開(清潔など)＞
問	31	医学的診断・予後予測・医療との連携	認知症	複合問題＜急変(事故)・口腔ケア＞
問	32	栄養と食事	高齢者の精神障害	認知症高齢者の介護
問	33	複合問題＜在宅医療管理＞	医学的診断・予後予測・医療との連携	ケアにおけるリハビリテーション
問	34	感染予防	医学的診断・予後予測・医療との連携	薬の知識
問	35	複合問題＜在宅医療管理＞	栄養・食生活	医学的診断・予後予測・医療との連携
問	36	複合問題＜急変時の対応＞	複合問題(呼吸・在宅酸素療法)	栄養・食生活からの支援と介護
問	37	複合問題＜高齢者に多い疾患＞	感染症	在宅医療管理
問	38	複合問題＜高齢者に多い疾患＞	急変時の対応	複合問題(脱水・服薬・疾病等)
問	39	死亡診断書	複合問題(高齢者に多い疾患)	高齢者に多い疾病
問	40	訪問看護	ターミナルケア	ターミナルケア
問	41	訪問リハビリテーション	通所リハビリテーション	訪問看護
問	42	短期入所療養介護	短期入所療養介護	通所リハビリテーション
問	43	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	看護小規模多機能型居宅介護	短期入所療養介護
問	44	介護老人保健施設	介護医療院	定期巡回・随時対応型訪問介護看護
問	45	介護医療院	介護老人保健施設	介護老人保健施設
問	46	面接場面におけるコミュニケーション	面接場面におけるコミュニケーション	面接場面におけるコミュニケーション
問	47	ソーシャルワーク	ソーシャルワーク	インテーク面接
問	48	支援困難事例	相談援助者の基本姿勢	ソーシャルワーク
問	49	ソーシャルワーク(地域援助)	ソーシャルワーク(集団援助)	ソーシャルワーク(集団援助)
問	50	訪問介護	訪問介護	訪問介護
問	51	通所介護	訪問入浴介護	通所介護
問	52	訪問入浴介護	通所介護	訪問入浴介護
問	53	短期入所生活介護	短期入所生活介護	短期入所生活介護
問	54	福祉用具	住宅改修	福祉用具
問	55	認知症対応型共同生活介護	小規模多機能型居宅介護	小規模多機能型居宅介護
問	56	小規模多機能型居宅介護	認知症対応型通所介護	認知症対応型共同生活介護
問	57	指定介護老人福祉施設	指定介護老人福祉施設	指定介護老人福祉施設
問	58	生活保護制度	成年後見制度	生活保護制度
問	59	成年後見制度	高齢者虐待防止法	成年後見制度
問	60	後期高齢者医療制度	生活保護制度	障害者総合支援法

本紙の全部または一部の無断引用・転載、またはコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製を行うとは、著作権法上の例外を除き禁じられています。

(3)関連項目別出題実績について

関連項目	出題項目	第27回(令和6年) 10/13	第26回(令和5年) 10/8	第25回(令和4年) 10/9
高齢者を取り巻く状況と改正関連	高齢化		問1	
	介護を取り巻く状況	問1		
	第1号被保険者の状況			問4
	要介護認定数の状況	問2		
	2020年改正内容			
	共生型サービス			
	地域福祉, 地域共生社会		問2	
	重層的支援体制整備事業			問2
介護保険法	介護保険制度の考え方			問1
	介護保険法第2条		問4	
	介護保険法第4条			
	介護保険法第5条			問3
制度の仕組み	社会保険, 社会保険方式の特徴		問3	
	医療保険者の事務	問3		
	都道府県知事の責務	問4		
	市町村が有する権限	問16		
	被保険者資格(適用除外施設, 取得・喪失)		問6	問5
	第1号被保険者	問5		
	住所地特例		問5	
	介護保険財政	問11		問9
	保険料	問12		問10
	財政安定化基金			
	社会保険診療報酬支払基金		問12	
	要介護認定	問17, 18	問18, 19	問8, 問18
	主治医意見書	問19		問16
	特定疾病			問17
	保険給付	問8	問8	
	区分支給限度基準額	問6		
	他制度との関係(他法令による給付調整)		問7	
	費用負担	問9		
	市長村長が指定する事業者	問7		
	介護サービス情報の公表制度		問15	問14
	市町村介護保険事業計画	問10		
	国民健康保険団体連合会(国保連)の業務			問13
	介護サービスに関する苦情処理			問15
	審査請求(介護保険審査会)	問15	問16	
	消滅時効		問17	
	介護保険等関連情報の調査・分析		問10	
	地域医療介護総合確保基金		問11	
	地域ケア会議		問14	
介護保険サービス	指定居宅サービス事業者		問9	
	訪問介護	問50	問50	問50
	訪問入浴介護	問52	問51	問52
	訪問リハビリテーション	問41		
	訪問看護	問40		問41
	通所介護	問51	問52	問51
	通所リハビリテーション		問41	問42
	福祉用具	問54		問54
	住宅改修		問54	
	短期入所生活介護	問53	問53	問53
	短期入所療養介護	問42	問42	問43
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	問43		問44
	夜間対応型訪問介護			
	認知症対応型通所介護		問56	

本紙の全部または一部の無断引用・転載、またはコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製を行うとは、著作権法上の例外を除き禁じられています。

関連項目	出題項目	第27回(令和6年) 10/13	第26回(令和5年) 10/8	第25回(令和4年) 10/9
介護保険サービス	認知症対応型共同生活介護	問55		問56
	小規模多機能型居宅介護	問56	問55	問55
	看護小規模多機能型居宅介護		問43	
	介護保険施設			問7
	指定介護老人福祉施設	問57	問57	問57
	介護老人保健施設	問44	問44	問45
	介護医療院	問45	問45	
地域支援事業	地域支援事業(介護予防・日常生活支援総合事業)	問14		
	地域支援事業(介護予防・生活支援サービス事業)		問44	問11
	地域支援事業(包括的支援事業)	問13	問45	問12
介護支援専門員関連	事例(介護支援専門員の対応)	問24, 25	問23, 24, 25	問23, 24, 25
	介護支援専門員			問6
	指定居宅介護支援(人員及び運営基準等)	問20	問20	問19
	指定介護予防支援(人員及び運営基準等)	問23		
医療知識関連	高齢者の疾患の特徴, 高齢者に多い疾病	問26, 37, 38	問26, 39	問26, 39
	褥瘡		問29	
	高齢者の精神障害	問30	問32	問27
	医学的診断・予後予測・医療との連携	問31	問33, 34	問35
	在宅医療管理	問33, 35		問37
	ターミナルケア(終末期ケア, 死亡診断書)	問39	問40	問40
	バイタルサイン	問27	問27	問28
	検査		問28	問29
	薬の知識			問34
	感染症(経路, 予防)	問34	問37	
介護技術関連	介護技術の展開(排せつの介護)			
	複合問題(呼吸, 在宅酸素療法)		問36	
	複合問題(脱水・服薬・疾病等)			問38
	複合問題＜介護技術の展開(口腔ケアなど)＞	問28		
	複合問題＜介護技術の展開(清潔など)＞			問30
	複合問題＜急変(事故)・口腔ケア＞			問31
	急変時の対応	問36	問38	
	栄養・食生活からの支援と介護	問32	問35	問36
	認知症高齢者の介護		問31	問32
	ケアにおけるリハビリテーション	問29	問30	問33
ソーシャルワーク	ソーシャルワーク	問47	問47, 48	問48
	ソーシャルワーク(支援困難事例への対応)	問48		
	ソーシャルワーク(集団援助)		問49	問49
	ソーシャルワーク(地域援助)	問49		
ケアマネジメントと計画	面接場面におけるコミュニケーション技術	問46	問46	問46
	インテーク面接			問47
	アセスメント			
	モニタリング			問21
	記録の整備	問22		問20
	介護予防サービス計画			問22
	居宅サービス計画	問21	問21	
	施設サービス計画		問22	
関連諸制度	障害者総合支援法			問60
	生活保護制度	問58	問60	問58
	生活困窮者自立支援法			
	後期高齢者医療制度	問60		
	高齢者虐待防止法		問59	
	成年後見制度	問59	問58	問59

本紙の全部または一部の無断引用・転載、またはコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製を行うとは、著作権法上の例外を除き禁じられています。